

碑

階段式の文字が導くまま、人は上ってゆく
それは考えてみればただの記号であるはず
だが、何と長い時の流れを秘めていることが

歴史とは廃墟を残すことであろうか
その風景の中に官能的な恐怖があり
果てしない荒野を風が歩き去ってゆく

凝縮と門外不出の文化に沈潜し
妖しげな空模様の下に流れるもの

内海に身を沈めて自己を空くうの中に残し
無上の存在として漂い、遙かに流れるもの

上昇の速度のために音声が歪み
風化された壁面に掌を押し当て
くず折れる現在の向こうに
ああ、感覚がうちふるえる

(1984.11.14)